



学校普通教室のエアコン設置、早期に着手を

真野 和久 議員

先進事例等を勉強しながら
検討していきたい

教育部長

エアコンも検討課題として入ってくる。

小中一貫・施設一体型の問題点

1 中学校1小学校にまとめないと言いが、適正規模にこだわらざる理由は。

教育部長 小規模校を否定しているわけではない。小規模校にもメリットがあるが、デメリットもある。よりよい教育環境を提供できるのは適正規模の学校をつくることだ。

施設一体型の小中一貫

教育を考えているというが、6・3制のカリキュラムも変える検討しているのか。

教育部長 検討課題だ。

施設一体型では、特別教室、体育館の共有化、授業時間が違うため、チャイムや移動の課題も出てくるし、学校事務に関する職員が十分に確保できない可能性もあるが。

教育部長 議員から指摘のあった危惧される部分をどうするかを今検討しているところだ。

学校トイレの改修・洋式化について、完了までにどのぐらいかかるか。

教育部長 毎年度2校ずつと仮定して、あと8年ほどと見込んでいます。

一巡するのが8年と考

えるが、残りの2巡目以降の改修の考えは。

教育部長 8年は一部改修が終わる期間。校舎のトイレすべてを変える計画はまだない。

施設管理計画を立ててから2巡目に入るのか。

いつ計画はできるのか。

教育部長 その考えで取り組んでいきたい。明確な年数はわからない。

一部改修で1つの階に1つか2つの洋式トイレでは十分と思えないがどうか。

教育部長 不便をかけるかもしれないが、少なくとも一部改修で環境を整えていく。これがまず喫緊の課題だと捉えている。

普通教室のエアコン設置

置について、トイレ改修の後ではいつになるかわからない。市町によって

は一度に配置をするところも出てきている。市でも早期に着手するよう見直すべきでは。

教育部長 エアコン設置を後回しにする考えはないが、学校の受電設備や天井の耐力度の調査、普通教室の集約など、学校との調整も必要となる。

先進事例等を勉強しながら設置に関して検討して

いきたい。

個々の学校施設の管理計画が立たなければ動けないでは、市の学校教育環境がどんどんと遅れていく。期限を区切ってやっていく必要がある。いつまでに出すのか。

いきたい。

個々の学校施設の管理計画が立たなければ動けないでは、市の学校教育環境がどんどんと遅れていく。期限を区切ってやっていく必要がある。

いつまでに出すのか。

教育部長 学校の施設の改善を早急に検討していかねばならない。市全体として公共施設管理計画を平成31年度までに策定する。その方向性を考えた上で、トイレ、工

先進事例等を勉強しながら設置に関して検討して

いきたい。



▲統合が計画されている八開中学校